

いわゆる過疎地域の家族関係 (9)

— 過疎地域における「変化」のとりえ方 —

水山進吾¹⁾・ 続 有恒 ほか 過疎研究グループ

I 目 的

過疎化という、地域社会の大きな変動の中で、住民はどこに「変化」を実感し、その「変化」をどのようにうけとめているのであろうか。資料採集の面接場面では、村の人達はいろいろなことを語ってくれた。ある人は食生活の向上を、ある人は道路事情の改善を、またある人は部落意識の低下を……といった具合に、昔のこと、今のこと、そして昔と今とを対比させて、その変化を語ってくれた。また、その「変化」をある人は肯定的に、ある人は否定的にうけとめているようであった。私はこの「変化のとりえ方」に関心をもった。

ここでは、領域別に見た場合、村の人達はどのような領域に「変化」を感じとっているか、といった、ごく限定した問題について検討を加えたい。例えば「食生活」の変化を1番大きな変化としてとらえているのか、あるいは、「部落意識」の変化を1番大きな変化としてとらえているのか、といった問題である。さらに、1・2のケースについて **case-study** を試み、変化のとりえ方の個人差といったものをみていきたい。

以上まとめていえば、本研究の目的は次のようになる。

(1) 過疎化にともなう地域社会の「変化」を住民はどのような「領域」について感じとっているかを検討する。

(2) 2・3の具体的事例について、**case-study** 的に「変化」のとりえ方を分析する。

II 方 法

次に上記の目的を達成するための方法論が問題になる。現在われわれが入手している資料は、各地における面接資料であるが、この膨大な資料をどのように分析していくかに成否がかかっていることはいままでもない。1ケース、1ケースを丹念に読んでいけば、過疎地域における変化を、住民がどのようにうけとめているかも、

おのずから浮び上がってくるのであろうが、そのためには可成りの洞察力が要求される。この種の資料は、最終的には個々のコメントにとらわれず、優れた洞察力で、全体的に把握していくべきものと思われるが、同時に、多少でも客観的な分析を行うことができないものか、というニーズもある。

そこで、ここでは **"key-words"** というアイデアを導入してみた。すなわち資料集の各コメントを全部考察の対象としないで、**"key-words"** によって該当コメントを抽出し、そのコメントについてのみ分析する、という仕方である。

「変化」のとりえ方、という問題意識から、**"key-words"** として、「昔は～、今は～」という表現およびそれに類する表現が選ばれた。ここにこそ、最も「変化」がとらえられていると考えたからである。具体的には次のようなものである。

- (イ) {
 - ・昔は (昔に比べれば)
 - ・以前は
 - ・今までは
 - ・〇〇年前までは (7～8年前以上)
 - ・その当時は
 - ・わしらの時代は
 - (その他これらに類するもの)
- (ロ) {
 - ・今は
 - ・この頃は
 - ・最近は
 - ・現在は
 - (その他これらに類するもの)

(イ)、(ロ)の組合せか、(イ)、(ロ)いずれか一方を含んでいるコメント。その他、「～変わった」、「～変化した」、「～違って来た」などを含むコメントを抽出する。

これらの **"key-words"** をもとにして、採集資料集から該当するコメントを抽出するのであるが、実際にはいくつかの問題を含み、必ずしも機械的にピックアップできるとはいえない。例えば「今は下の畑へ行っている」というコメントを「今は」という **"key-words"** が入っているから拾っていいかという、そういうわけにはい

1) 名古屋市立保育短期大学助教授

いわゆる過疎地域の家族関係(9)

かない。これは明らかに変化をとらえたコメントではないからである。また「以前は～」という表現であっても前後の文脈から、ほんの2～3年前のことを「以前」といっている場合もある。これも該当コメントとして拾い出すわけにはいかない。その他、極めて個人的な内容のもの、例えば「昔はよく飲んだが今は……」というコメントもカットした。

このように、一応“key-words”を手がかりに該当するコメントを選び出しても、その中からまた取捨選択しなくてはならず、ここに分析する側の判断がどうしても入ってきてしまう。ここでは「昔は～、今は～」という表現をあくまで基本にし、「昔は」を少なくとも、ここ7～8年以前と推定されるものに限って抽出した。この辺の問題については、今後十分検討していく必要がある。

次に、上記のような“key-words”によって抽出したコメントの整理の仕方であるが、二通りの整理の仕方が可能である。1つはコメントの延べ数でまとめていく仕方で、例えば、1人の被面接者が、「食生活の向上」について幾つかのコメントをのべたとすれば、それをすべ

て数えあげ、5個ならば「食生活の向上……5」というまとめ方をする場合である。もう1つは、同じ領域について、幾つのコメントが述べられたとしても、それは1個とみなすまとめ方である。上述の例でいえば、たとえ5個のコメントが述べられたとしても、整理の段階では「食生活の向上……1」という数え方になる。両者ともそれぞれ長短があるが、ここでは後者のまとめ方を採用した。つまり、同じ被面接者が1つの領域について、1個のコメントを述べていても、多数のコメントを述べていても、その領域について語った、という意味では同じに扱うことにした。

尚、ここで分析の対象とした資料は、長野県上村での面接調査資料(1971. 8.4～8.9)である。

Ⅲ 結果及び考察

“key-words”で抽出したコメントを表1のように領域別にまとめてみた。1つのコメントの中に2個以上の内容が含まれている場合には、主たるもの一方のみについて分類した。尚、61ケースの該当コメント数は、平均して全コメント数の8%である。

表 1 男女別、年代別、資産別の表(下位領域)

領域	下位領域	男女別		年代別 ⁽²⁾			合計 ⁽¹⁾ 61人	資産別 ⁽³⁾	
		男 43人	女 18人	40代 28人	50代 15人	60代 18人		上 11人	下 16人
生活様式	生活全般の変化 ⁽⁵⁾	12 27.9	2 11.1	9 32.1	1 6.7	4 22.2	14 23.0	3 27.3	4 25.0
	生活水準の向上	16 37.2	8 44.4	4 14.3	8 53.3	12 66.7	24 39.3	3 27.3	5 31.3
	生活の派手さ	6 14.0	1 5.6	1 3.6	2 13.3	4 22.2	7 11.5	0 0.0	4 25.0
	生活の格差減少	6 14.0	1 5.6	4 14.3	2 13.3	1 5.6	7 11.5	0 0.0	2 12.5
	食生活の向上	15 34.9	5 27.8	7 25.0	6 40.0	7 38.9	20 32.8	3 27.3	5 31.3
	家計の変化	9 21.0	1 5.6	5 17.9	1 6.7	4 22.2	10 16.4	2 18.2	3 18.8
	娯楽の変化	7 16.3	0 0.0	3 10.7	2 13.3	2 11.1	7 11.5	1 9.1	2 12.5
	その他	3 7.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	2 11.1	3 4.9	0 0.0	0 0.0
	生活様式全体 ⁽⁴⁾	33 76.7	12 66.7	16 57.1	12 80.0	17 94.4	45 73.8	8 72.7	14 87.5
農業	農業の変化	22 51.2	8 44.4	13 46.4	7 46.7	10 55.5	30 49.2	6 54.5	5 31.3
	出稼ぎの変化	6 14.0	1 5.6	4 14.3	0 0.0	3 16.7	7 11.5	2 18.2	1 6.3
	労働量の変化	4 9.3	4 22.2	6 21.4	2 13.3	0 0.0	8 13.1	4 36.4	0 0.0
	その他	1 2.3	0 0.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	1 1.6	1 9.1	0 0.0

原 著

領域	下位領域	男女別		年代別			合計	資産別	
		男 43人	女 18人	40代 28人	50代 15人	60代 18人		上 11人	下 16人
	農業全体	25 58.1	11 61.1	18 64.3	8 53.3	10 55.6	36 59.0	7 63.6	9 56.3
意識	全般的变化	6 14.0	1 5.6	2 7.1	4 26.7	1 5.6	7 11.5	3 27.3	1 6.3
	人情的变化	5 11.6	0 0.0	2 7.1	2 13.3	1 5.6	5 8.2	1 9.1	4 25.0
	考え方の变化	15 43.9	6 33.3	12 42.9	7 46.7	2 11.1	21 34.4	3 27.3	7 43.6
	部落根性の減少	3 7.0	2 11.1	1 3.6	4 26.7	0 0.0	5 8.2	2 18.2	1 6.3
	その他	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	意識全体	22 51.2	7 38.9	16 57.1	10 66.7	5 27.8	29 47.5	5 45.5	10 62.5
冠婚葬祭	婚姻式の拡大	7 16.3	3 16.7	4 14.3	5 33.3	1 5.6	10 16.4	2 18.2	5 31.3
	結婚様式の変化	9 21.0	2 11.1	4 14.3	4 26.7	3 16.7	11 18.0	1 9.1	5 31.3
	盆踊り・祭の変化	8 18.6	1 5.6	3 10.7	4 26.7	2 11.1	9 14.8	1 9.1	5 31.3
	葬儀様式の変化	2 4.7	2 11.1	1 3.6	2 13.3	1 5.6	4 6.6	1 9.1	2 12.5
	その他	4 9.3	0 0.0	3 10.7	1 6.7	0 0.0	4 6.6	1 9.1	2 12.5
	冠婚葬祭全体	20 46.5	6 33.3	11 39.3	10 66.7	5 27.8	26 42.6	5 45.5	11 68.8
道路	道路の変化(全体)	15 34.9	8 44.4	11 39.3	8 53.3	4 22.2	23 37.8	5 45.5	4 25.0
近隣	集会の変化	12 28.0	2 11.1	7 25.0	2 13.3	5 27.8	14 23.0	4 36.4	4 25.0
	交際の変化	8 18.6	4 22.2	6 21.4	4 26.7	2 11.1	12 19.7	1 9.1	5 31.3
	その他	2 4.7	1 5.6	2 7.1	0 0.0	1 5.6	3 4.9	0 0.0	2 12.5
	近隣関係全体	18 41.9	5 27.8	11 39.3	6 40.0	6 33.3	23 37.7	4 36.4	7 43.6
過疎化	家族数の減少	6 14.0	0 0.0	3 10.7	1 6.7	2 11.1	6 9.8	1 9.1	1 6.3
	離村	13 30.2	3 16.7	8 28.6	5 33.3	3 16.7	16 26.2	4 36.4	4 25.0
	その他	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	「過疎化」全体	17 39.5	3 16.7	10 35.7	5 33.3	5 27.8	20 32.8	4 36.4	5 31.3
教育	進学率の増加	6 14.0	1 5.6	4 14.3	3 20.0	0 0.0	7 11.5	2 18.2	2 12.5
	教育内容の変化	1 2.3	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	その他	3 7.0	0 0.0	3 10.7	0 0.0	0 0.0	3 4.9	2 18.2	2 12.5
	教育全体	9 21.0	1 5.6	6 21.4	4 26.7	0 0.0	10 16.4	3 27.3	2 12.5
その他	「その他」全体	3 7.0	1 5.6	2 7.1	0 0.0	2 11.1	4 6.6	0 0.0	2 12.5

- 注 ① 面接戸数は45戸であるが、同一家庭でも夫・妻・その他が面接に応じてくれた場合は、別々に集計したので、数が多くなっている。
- ② 40代には数名の30代を含み、60代には同様数名の70代を含んでいる。
- ③ 山林所有の程度を基準にし、1500a以上を「上」、100a以下を「下」とした。
- ④ 「生活様式」に含まれる下位領域のいずれか1つ、あるいはそれ以上について語った人の数を示す。従って下位領域の合計ではない。以下の「～全体」についても同様である。
- ⑤ 各々の数字は、上段が実数、下段が%である。

最初に被面接者全体についてみてみたい。

表2 合計の表(領域全体)

領域	合計 61人
「生活様式」全体	45 73.8
「農業」全体	36 59.0
「意識」全体	29 47.5
「冠婚葬祭」全体	26 42.6
「道路」全体	23 37.8
「近隣」全体	23 37.8
「過疎化」全体	20 32.8
「教育」全体	10 16.4
「その他」全体	4 6.6

* 表1より作表

表2でわかるように、この過疎地域では、全体としては「生活様式」と「農業」において半数以上が変化を語り、ついで、「意識」、「冠婚葬祭」、「道路」および「近隣」が、そして「過疎化」、「教育」の順で変化が述べられている。

「生活様式」の内訳は、表1に示されるように、生活水準の向上(39.3%)、食生活の向上(32.8%)、生活全般の変化(とにかく変わったというもの 23.0%)、家計の変化(現金が必要16.4%)の順に語られており、あと生活が派手になったこと、生活の格差が少なくなったこと、娯楽の内容が変化したことが同率(11.5%)で語られている。以下採集資料の中から、代表的なコメントを引用しておきたい。尚、数字は面接資料集のケース番号とコメントの番号である。

(1) 生活水準の向上

・107-62「昔より生活様式が変わってきたので、その点(忙がしき)は楽だ。洗濯機はあるし、ごはんもガスで炊けるようになった」

・151-55「私が17~18才の頃の生活水準に比べると、天と地だ」

・174-54「生活水準も、昔からみれば、ずいぶん上がっている」

(2) 食生活の向上

・145-137「昔は、この辺では麦の入らない米の飯は盆と正月だけだった。正月でも3ケ日までで、多少麦の量は減らしても、それ以降は麦入りの飯だった」

・146-68「昔と違い、肉の消費量もずっと伸びている。動物性蛋白質、肉、魚でもそうだが、平均が昔の人の話を聞くと、ずっと多くなっているようだ。特に最近10年来、どこの家庭でも増えているのではないか」

・161-42「今のように、牛肉だの、豚肉だの、ミルクなんか夢みたいな話だ」

(3) 全般的变化

・156-46「私はこの村の出身であるが、若い頃の生活と今の生活を比べると、大変な変化である。昔の生活を今の若い人達に話しても信じてもらえないくらいの変化だ」

・151-2「私は下粟で生まれた。明治42年に生まれたのだから、今、62才になる。その当時から生活の様子は一変してしまった」

(4) 家計

・173-4「昔は金がなくても結構やれたが、現在では、そうはいかない」

(5) 派手

・123-74「今は金が取れるというのか、お互い派手になった。正月も普段と同じような生活になってしまった。そういう面は、特に上村は派手だ。学校でもいっていただけれど」

(6) 格差

・173-15「今では生活は違わない。なまじっか今では何もない人の方が楽だ。財産のある人の方がえらい」

(7) 娯楽

・105-27「娯楽はテレビがある。昔は運動会、12月の霜月祭、映画も巡回して来た。公民館まで遠いので、今はテレビの方がよい。それで、それもなくなって

しまった」

「農業」では、農業自体に関するもの(49.2%)が1番多く、農業経営の困難さ、農作物の変化が語られている。次いで、昔に比べて労働が楽になったことと(13.1%)及び出稼ぎの実情が(11.5%)語られている。代表的なコメントは次のようである。

(1) 農業

・121-2「この地方は、昔、大豆とか、あずきというようなものがとれた。耕地がみた通り少ないので、昔は、山の木を伐って焼畑にして、食糧の自給自足をやっていた」

・159-58「昔は、7分も8分も百姓だけでやってきたのだが、最近はそのことではやっていけない」

・173-2「農業だけではやっていけないので、この営林署に勤めている。昔は百姓ばかりやっていたが、今では(それではやっていけない)」

(2) 労働量

・139-12「そりゃまあ、昔のことを思えば、今は遊ぶようなものだと思う。それでもえらい、えらいといっているが、今はガスでご飯を炊いたりするから、ほとんど火(薪)をつかわずにすませてしまう。それでもえらい、えらいというが、考えてみれば今は楽だなあと思う」

(3) 出稼ぎ

・167-205「それからこっちは、もう殆んど全戸に近い程稼ぎに出る。今は女だってここらは出る」

「意識」の内訳は、考え方の変化(34.4%)を語っているものが一番多く、個人本位あるいは自己中心的である、合理的である、自己主張的である、民主的あるいは進歩的である、ドライである……といった内容である。ついで、特に内容には触れていないが「とにかく変わった」というものがそれについている(11.5%)。代表的なコメントを以下に引用しておく。

(1) 考え方

・103-22「自分の意見を堂々と述べる。昔と違ってきた。新風を吹き込んでくれる」

・107-41*「昔に比べるとドライになった。昔はお金を借りると、あそこの店は借りとるから、そこで、というような義理堅い所があったけど、今はもう割り切とる」

・121-95「昔は親のいうことを聞いていたが、今はそうはいかない。学校でもそうだが、本人の希望を第1に優先してしまう」

(2) 全般的变化

・171-96「そうだ、昔の人の考えとは、すっかり変わってしまっている」

「冠婚葬祭」では、結婚式がこれまでの形式にとらわれず簡略になったと同時に内容的には派手になったという様式の変化(18.0%)、婚姻圏の拡大(16.4%)、盆・祭の行事がさびれた(14.8%)といった内容である。次に代表的なコメントを引用しておく。

(1) 結婚の様式

・152-44*「最近では派手だ、簡素化といわれていることを知りながら、皆、かえって今の方が派手だ」

・159-11「昔と比べて、大分略式になってきた」

(2) 婚姻圏の拡大

・102-64「昔は嫁をもらうというと、近隣に限られ、多くは血族結婚だった。今は職場結婚が多いから全国いたるところから嫁が来る。わざわざ村から嫁を連れて行くということはない」

(3) 盆・祭

・123-227「やはり昔みたいにはやらない。若い人達が他所へ出て行ってしまっているので、この町の踊りをよく知らない」

「道路」は、ほとんどすべてが、昔は大変だったが現在は便利になったという内容のもので、以下のコメントによって代表されている。

・119-8「そうだ、以前は歩くと早くても1時間くらいかかった。奥に行くと2時間くらいかかったものだ。ハイヤーなんかを使えるようになって、急ぎの用事は助かるようだ」

・152-90「此の頃は道ができたから、お医者さんも車で走れるし、病人をつれていくにもそれができるが、それまでは本当にそれに困ったものだった」

「近隣」の内訳は、常会、青年会、勤労奉仕、飲む会など各種フォーマル、インフォーマルな集会の減少あるいは解消(23.0%)、次いで隣近所との往来が少なくなった、親元その他へいちいち土産物を持っていくことが少なくなった、といった交際の変化(19.7%)が語られている。以下に代表的なコメントを引用しておく。

(1) 集会

・123-180「昔は、常会といって男の人達の集まりがあったが、この頃はそういう会合もない」

・174-145「昔のように勤労奉仕とか村の義務人夫はなくなってしまってきているので、病氣見舞とか葬式のお悔みなどの義務程度の付合いは年寄りが大体やっている」

いわゆる過疎地域の家族関係(9)

(2) 交 際

・105-98「そういうことは（隣近所へ毎夜のように遊びに行くことは）今はほとんどない。1ヶ月もいかないことがある。用がないと行かない。昔は用がなくとも毎日行った。風呂も皆がもらい風呂して、いろいろに皆坐って茶を飲んで、しゃべっていたもんだ」

・176-189「昔は年寄が家に居れば、ちょっと隣へ話に行ってくる、ということもあったが、最近では用事があっても電話で済ませてしまうくらいだから、遊びに行くということはない」

「過疎化」では離村の実状（26.2%）、1戸あたりの家族数の減少（9.8%）が主なものであり、次のようなコメントによって語られている。

(1) 離村の実情

・121-55「長男も今は出ていく、次・三男はもちろん。今は長男も次・三男も変わらない」

・172-121「中郷は急激に人口が減って、現在は60戸ぐらいしかない。ここ10年ぐらいの間に30戸以上減った」

(2) 家族数の減少

・153-130「昔は5人から7人、多ければ10人も産まれたような家が何軒もある。今では2人か3人でみんなやめてしまう」

「教育」では進学率の増加が1番多く語られているが、それでも11.5%という低さである。コメントは次のようなものである。

・123-99「今は中学校が終っても、ほとんど進学

する」

次に男女別の差異をみてみたい。

表3に示されるように、まず「変化」についてのコメントは男子の方が多い。男子の場合、1番コメントの多い領域は「生活様式」で、次いで「農業」、「意識」、「冠婚葬祭」、「近隣」、「過疎化」、「道路」、「教育」の順になっている。女子の場合「生活様式」、「農業」の順は男子と同じであるが、次に「道路」に関するコメントが多いのが特徴である。あと「意識」、「冠婚葬祭」、「近隣」、「過疎化」、「教育」の順になっている。「教育」に関してのコメントが少ないことが目立つ。

表4 年代別の表（領域全体）

領 域	40代 28人	50代 15人	60代 13人
「生活様式」全体	16 57.1	12 80.0	17 94.4
「農業」全体	18 64.3	8 53.3	10 55.6
「意識」全体	16 57.1	10 66.7	5 27.8
「冠婚葬祭」全体	11 39.3	10 66.7	5 27.8
「道路」全体	11 39.3	8 53.3	4 22.2
「近隣」全体	11 39.3	6 40.0	6 33.3
「過疎化」全体	10 35.7	5 33.3	5 27.8
「教育」全体	6 21.4	4 26.7	0 0.0
「その他」全体	2 7.1	0 0.0	2 11.1

* 表1より作表

年代別では、表4に示されるように、「変化」についてのコメントを最も多く述べているのは50代であり、あと40代、60代の順である。40代では「農業」に関するものが1番多く、あと「生活様式」及び「意識」について半数以上の人語っている。50代では「生活様式」の80%をトップに、あと50%以上のものは「意識」及び「冠婚葬祭」、ついで「農業」及び「道路」の順になっている。60代では「生活様式」の94.4%が最も特徴的である。あと「農業」は55.6%であるが、その他はいずれも低い比率である。

次に資産別の傾向をみてみたい。

表5の「上」、「下」は資産別の一応の基準として、山林1500a以上の群「上」と100a以下の群「下」とを選び、対比させたものである。「上」群では「生活様式」「農業」が50%以上であるが、その他はそれ以下である。一方「下」群では「生活様式」の87.5%が目立ち、

表3 男女別の表（領域全体）

領 域	男 43人	女 18人
「生活様式」全体	33 76.7	12 66.7
「農業」全体	25 58.1	11 61.1
「意識」全体	22 51.2	7 38.9
「冠婚葬祭」全体	20 46.5	6 33.3
「道路」全体	15 34.9	8 44.4
「近隣」全体	18 41.9	5 27.8
「過疎化」全体	17 39.5	3 16.7
「教育」全体	9 21.0	1 5.6
「その他」全体	3 7.0	1 5.6

* 表1より作表

表5 資産別の表（領域全体）

領 域	上		下	
	11人		16人	
「生活様式」全体	8	72.7	14	87.5
「農業」全体	7	63.6	9	56.3
「意識」全体	5	45.5	10	62.5
「冠婚葬祭」全体	5	45.5	11	68.8
「道路」全体	5	45.5	4	25.0
「近隣」全体	4	36.4	7	43.6
「過疎化」全体	4	36.4	5	31.3
「教育」全体	3	27.3	2	12.5
「その他」全体	0	0.0	2	12.5

* 表1より作表

あと50%以上のものは「冠婚葬祭」，「意識」，「農業」の順になっている。

以上、変動する過疎地域において、住民はどのような領域に「変化」を感じとっているかをみてきた。性別、年代別、あるいは資産別に、それぞれの特徴は認められるが、全体としての傾向は大すじにおいて同じであるといつてよい。そして、まず何よりも身近なものなかに変化を感じとっていることがうかがえる。すなわち「生活水準の向上」，特に「食生活の向上」に変化を肯定的に感じとっている。引用したコメントにもあるように、まさに昔に比べれば「天と地の違い」であり、「夢のような話し」なのである。次に「農業」における変化があげられている。これも「生活様式」につぐ、あるいは、それに匹敵する身近かなものである。ただ「農業」については「生活様式」と異って多くのコメントには苦悩が語られている。もはや、これまでの農業では「食っていけない」という不安・動揺がその内容である。

「生活様式」，「農業」といったごく身近なもの次には、目は外へ向けられるが、その前に、いわば外界と自己をつなぐという意味で「意識」の変化についてのコメントが3番目に多くのべられている。その主内容は一口でいってしまえば個人主義的・合理主義的思考への変化といってもよいもので、人それぞれ多少のニュアンスの違いはあるが、「仕方がない」という気持ちも含めて、全体としては肯定的に受けとめているようである。

「意識」について「冠婚葬祭」，「道路」及び「近隣」，「過疎化」「教育」の領域における変化がのべられ

ていく。進学率の増大は、目を見はるものがあるのに、この領域における「変化」を語っている村民はごくわずかである。

これら各領域における「変化」をどのように受けとめているかは、さらに詳細な分析が必要であるが、全体としては「生活様式」で代表されるような肯定的受けとめ方が多いようである。ただはっきりしていることは「農業」における「変化」を悲観的に受けとっていることでその不安の上に成り立っている限りは「生活水準の向上」も大多数の村民にとっては「砂上の楼閣」的な意味しかもたないのではないかと危ぶまれる。いずれにしろ過疎地域においては、ごく限られた人口しか養う力をもっていないかもしれないが、その限られた人口であっても確実に食べていけるような抜本的対策が是非ともぞまれるのである。

IV case - study

以上、住民全体としての、おおよその傾向をみてきたが、既に述べたように、一応全体的な把握は可能であっても個人差は極めて大きい。とくに微妙なニュアンスの違いまで問題にしていけば「変化」のとらえ方は、おそらく個々まちまちなとらえ方をしていると思われる。

ここでは key-words を手がかりに、対照的な2つのケースをとりあげ比較検討してみた。

No.102のケースは、57才の男子。資産家で田畑 352a、山林 3124a と多い。上村の名氏である。旧制の中学を卒業している。

まず key-words で拾えるコメントを列挙してみると

52. 「この3～4年でめっきり変わった。高度成長で都会とこの生活の差がうめられ、ガスにしても電気にしても都会並に便利になった」（生活水準向上）

59. 「せちがらさが出てきている。しゃべるところを聞いていても、せちがらさが感じられる。話題も昔と違ってきた」（人情の変化）

60. 「10年前は人情も厚かったが今は違う」（人情の変化）

61. 「終始ここにいると変ったなあと思う」（人情の変化）

63. 「他の家に行って、時になると、昔は見ず知らずの人にも茶を出し御飯を出した。今は変わってきた。この家もこんなに変わったか、とふっと感じる時がある」（人情の変化）

64. 「昔は嫁をもらうとき近隣に限られていた…今は全国至るところから嫁が来る……」（婚姻圏の拡大）

67. 「縁故関係は少ない。以前はこの付近で迎え、親せきがお互いに助けあっていた」(婚姻圏の拡大, 人情の変化)

87. 「昔は交通不便で、鮮度が悪くても食べた。今は買う人が色が変わってれば買わない……」(食生活の向上)

94. 「そのくせ、付合いは、せちがなくなった。昔は病人が出て何日かすると、皆が見舞いに行ったものだが、今じゃ余程の近親しか行かない」(人情の変化)

95. 「田植でも、他所の家へ手伝いに行ったものだが今は行かない」(人情の変化)

96. 「人情も変わってきた」(人情の変化)

110. 「ここ3~4年のうちに変わってきた」(進学率の増加)

117. 「そうだ。7~8年前、私が教育長をしていた頃は、定時制を含めて、42~43%くらいだった」(進学率の増大)

122. 「昔は部落根性というのがあって、何かの会長をとるとか、優勝旗を取るという時は、血の雨を流してまでも……」(部落根性の減少)

以上14個のコメントを抽出することができる。このNo. 102のケースの場合、人情の変化、それも「せちがらい」という表現で要約されているような、否定的なとらえ方に特徴がある。

次にNo. 105についてみてみよう。No. 105は50才の男子。職業は大工で、資産は田畑44a、山林44aとごくわずかである。小学校卒。

同様にkey-wordsで拾いあげていくと、以下のコメントが抽出される。

4. 「昔は一方では10円の金でも隣へ借りに行った家もあったし、また一方では米をまとめて買う家もあった。昔は豊かな人と、そうでない人の差がひどかった。今はほとんど大きな差はない」(生活の格差減少)

9. 「テンプラは、盆・正月でなければ食べられなかった。今は盆も正月もない。肉でもいくらでも食べられる」(食生活の向上)

10. 「昔は麦7分に米3分という、ひどいのを食べた。今はほとんど米のめし。麦は体裁に入れるだけだ」(食生活の向上)

24. 「ここ7~8年だ。様子がよくなった」(生活水準の向上)

27. 「娯楽はテレビがある。昔は運動会……今はテレビの方がよい……」(娯楽の変化)

37. 「土地のものの同志で結婚するのは少なくなっ

てきた。自分達のころは、仮に他に良さそうな人がいても、親達が決めた……」(婚姻圏の拡大, 考え方の変化)

38. 「しかし、この頃は、名古屋へ出て知り合っで連れてくるから、東北・九州など遠い所が多い」(婚姻圏の拡大)

40. 「15~16年前から、殆んどよそ者になった」(婚姻圏の拡大)

42. 「昔はそなわっただけ生んだ、しかし今は2~3人でやめる」(家族数の減少)

43. 「昔は嫁の方へ婿と仲人が行って……」(結婚様式の変化)

50. 「村へ来る人はたくさん持ってくる。ひときり前は、タンス……、この頃は電気製品が多くなって、持っていかなと恥かしい」(結婚様式の変化)

51. 「なにしろ、この頃祝儀の数が少ないのでよくわからない」(結婚式の減少)

53. 「この頃、流行が派手になって、次に何かあってという時、前のはもう着られない。タンスのこやしにしてしまっている」(生活が派手になった)

54. 「昔は、ものの良さだった。今は見た目のようだ。人の行き来も激しいので、チョット流行が変わると前のものはみともなくて」(生活が派手になった)

65. 「(村民同士の対立)は、この頃聞かない」(部落根性の減少)

66. 「昔はあったが今はない」(部落根性の減少)

67. 「昔は皆本校へ集まって式をした。そんな時、子ども同士がけんかした……。今は中郷と上町が合併したから、複式授業にならずにすんでいるので仲はいい」(部落根性の減少)

68. 「昔は青年の部落根性が大きかった。……しかし終戦後はなくなった」(部落根性の減少)

97. 「昔は、子どもは隣近所へ、夜など毎晩行ったり来たりして遊んだものだ。大人もいっしょに。テレビはないし、それが娯楽だった」(近隣との交際減少)

101. 「そう10年……。いや、ここ5~6年でばたっと変わった」(生活全般の変化)

以上のように貧富の格差の減少、それに伴う生活水準の全般的な向上を素朴に肯定的にとらえ、生活水準の向上が行き過ぎて派手になっていくことを批判的に見ている。その他結婚に関する事、部落対立に関する事が述べられているが、全体として「変化」を肯定的にとらえていることがうかがえる。

No. 102とNo. 105との「変化」のとらえ方に、どう

してこのような違いができてきているのかは簡単に結論づけることはできないが、おそらく **socio-economical status, personality**, 個人及び家族のこれまでの歴史など、いくつかのものがからみ合っているのであろう。これらの問題は今後に残されるが、少なくとも No. 105 を見る限りでは、過疎化現象は必ずしも否定的なニュアンスばかりでなく、過疎化現象とうらはらに起ってくる都会化（例えば生活水準の向上）の故に、かえってこれまでの生活よりも満足している住民がいることは確かである。

V おわりに

以上、まず最初に **Key-words** を手掛りに、上村全体の過疎化現象のうけとめ方を分析し、ついで **case-study** 的に2つのケースを検討してみた。全体としては、日々

の生活に直結した、住民にとってもっとも身近な領域について「変化」を実感していることが示された。しかし全体としてはそうであるが、個々のケースについては「変化」のとらえ方に、可成り大きな差のあることも示唆された。本研究では、採集資料をもとに、実体の把握といった程度のことしかできていないが、今後、地域差の検討、及び「変化」のとらえ方の差が生じてくるメカニズム等について研究を進めていきたい。またこれらと平行して、今回用いた **key-words** を使った分析方法にさらに検討を加え、この種の資料を分析する場合の1つの方法となるよう研究をすすめたいと思っている。

資 料

長野県上村における採集資料(2), 名古屋大学教育学部教育心理学科研究資料No.5.1972

STUDIES ON THE INTER-AND INTRA-FAMILY RELATIONSHIPS IN THE SO-CALLED "KASO" (TOO-THINLY-PEOPLED) COMMUNITIES (9)

—In what aspects do the inhabitants of "Kaso" (too-thinly peopled) communities grasp "changes"?—

Singo MIZUYAMA, Aritsune TSUDZUKI, and "Kaso" Group

The purpose of the present research is to show in what aspects the inhabitants of a so-called "Kaso" (too-thinly peopled) community grasp the "changes" of their community, on the basis of the personal interview data obtained at Kamimura, Nagano Prefecture, one of those too-thinly peopled communities in Japan.

Using the 'Key-words' method in analyzing the data, the author picked out the comments including the Key-words, such as "In former days..., while nowadays..." and all of the same kind, and classified them.

Here is the result of the analysis in decreasing order; on the whole, the inhabitants grasp the "changes" of their community in the aspects of:

1. the mode of life (a rise of the standard of living, an improvement of food life, etc.)
2. agriculture (aggravation of management, changes of kinds of products, etc.)
3. consciousness and way of thinking (selfishness, calculating way of thinking, etc.)
4. the forms of marriage and festivals (the widening of the range of marriage, econo-

mization of wedding ceremonies, etc.)

5. the road situation (a distinct improvement in the road situation, its benefits, etc.), and social intercourse with neighbors (a decrease in number of formal and informal parties etc.)
6. the population of the village (a marked decrease in population, flowing out of even the eldest sons into urban areas, etc.)
7. the percentage of higher school attendance and the substance of education (a rise in the percentage of senior high school attendance etc.)

It is recognized that the ways of grasping "changes" vary characteristically according to age, sex and family circumstances of the interviewed inhabitants.

Lastly, the author analyzed in detail the two cases which presented a striking contrast to each other in their ways of grasping "changes".